

ジャスティ（中央区小山）は、今回紹介する計算ドリルを考案した伊藤寛之さんが、妻の智子さんを代表として2018年6月に設立した会社です。こちらの採点がいらぬユニークで新しい計算ドリル「けいさんピラミッド」と「魔法の計算モドリル」は、市内中小企業の優れた新製品などを認定する今年度の「相模原市トリアル発注認定制度」にも選ばれました。そんな同社の伊藤さんに、開発にまつわる秘話や今後の展望を聞きました。

## ■娘さんの学習のために開発

「けいさんピラミッド」は、足し算と引き算をマスターするため、「魔法の計算モドリル」は、掛け算と割り算をマスターするためのドリルです。いずれも、子どもたちが自分で間違いを見つけ、修正しながら学ぶことを目的に開発された算数教材です。「通常のドリルは、保護者や教師が採点します。それに対し、モドリルなどでは、あらかじめ答えが一部記載されており、子どもがその場で答えを確かめながら進められる仕組みです」（伊藤さんと説明します）。

開発のきっかけは、娘さんが小学2年生の時にさかのぼります。算数で計算に対する苦手意識を持っていました。一方、伊藤さんは東京工業大（現東京科学大）卒で、「学生時代は数学オリンピックに出たり、空想の大学入試問題を作問したりして遊んでいました」と言うほどの算数・数学好きです。娘さんにも計算が得意になってもらいたいと、現在の商品の原点となるオリジナル問題集を自作しました。そして、それを使わせたところ、楽しみながら計算力が向上していききました。

やがて娘さんが通っていた近所の補習塾に紹介をしたところ、塾長より「生徒みんなに使わせたいのでぜひ製本してほしい」という話を受け、商品化につながりました。その後は教材の普及のために同社を設立し事業化、シリーズのラインナップも拡充しています。

## ■子どもの集中力もアップ

モドリルなどでは、解答を間違えてい

# 採点いらぬの計算ドリル開発

## 子どもの学ぶ力も引き出す

合同会社ジャスティ

## 伊藤 寛之さん

た時に、確かめ計算を徹底的にやるように工夫されています。最初こそ時間がかかるものの、1日1ページを続けていくうちに、ピタリと元の数字に合う爽快感と時間を競う計算力が自然と身に付くそうです。結果的に子どものやる気を倍増させ、学習が継続していくといえます。

「だんだんとタイムが上がっていく快感は、何物にも代えがたい成長の実感です。みるみるうちに計算力が上がってい



※個人の方も横山の中村書店やamazonでご購入いただけます

く感覚を、誰よりも子ども自身が日々感じていきます」（伊藤さん）と力説します。

実際、内容が評価され、これまでに全国の小学校や学習塾計30校で採用された実績があります。

## ■大人向けにも事業展開へ

「モドリルなどは、これまでに見たこともない発想の計算ドリルであり、国内外で広がるポテンシャルがあると考えています。計算を学ぶ需要に困境はありません。確かに、デジタル化の進展により、子どもたちが学ぶべきことは変わってい

きますが、読み書きや計算がいらなくなることはないでしょう」と伊藤さんは力説します。現在は英語版教材の試作も進めているそうです。

さらに、教材開発のノウハウを生かし、「大人のための計算ドリル」や、認知症予防を目的とした教材も開発中です。今後は漢字の書き取りや迷路などを組み合わせ、高齢者が目標を持ち、いきいきと学べるツールなども提供していく方針です。

「私たちの目標は、日本中、そして世界中の子どもたちに『モドリル』などを知ってもらい、計算が楽しく得意になる環境を提供することです」と、将来を見据える伊藤さん。一緒になって教材の普及に協力してくれる販売パートナーも広く募集しています。